



- 主要諸元：(PREMIUM Turbo 4WD)
- 全長×全幅×全高／4,725×1,835×1,690mm
 - ホイールベース／2,660mm
 - トレッド／前：1,560mm 後：1,560mm
 - 車両重量／1,700kg
 - 最小回転半径／5.6m
 - エンジン／1,998cc直列4気筒DOHCインタークーラー付ターボ
 - 最高出力／231ps／5200～5600rpm
 - 最大トルク／35.7kgf・m／1650～4000rpm
 - JC08モード燃費／12.8km/ℓ
 - ミッション／6速AT
 - ブレーキ／前／ベンチレーテッドディスク 後／ディスク
 - タイヤサイズ／235/55R18
 - 駆動方式／4WD
 - 乗車定員／5名
 - 車両本体価格(札幌地区)／3,738,960円(税込)



“ハリアーネス”のさらなる進化! トヨタ・ハリアーが直噴ターボエンジン 搭載でビッグなマイナーチェンジ!

TOYOTA HARRIER

■テキスト=天野 克彦 (BIBIMBA天野) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=札幌トヨペット クルマックス琴似店 Tel(011) 631-3131

—プロフィール— 高級クロスオーバー SUVの先駆者!

初代ハリアーは1997年12月に誕生したFF上級セダンであるカムリのプラットフォームをベースとして開発され、雄ライオンの頭を持つタキシードを着込んだ紳士が美

女をエスコートするというテレビCMを覚えていた方も多かったろう。そのキャッチコピーは「WILD but FORMAL」であり、つまりハリアーは当初からハード系4WDカーとは一線を画す、シティ派アーバンクルーザーの性格を強く持つ高級クロスオーバーSUVの先駆者として誕生したのである。

その後、国内外を問わず多数のメーカーから、同様な手法を使い、FFセダンのプラットフォームを流用して開発されたシティ派SUVが次々と登場する。ハード系4WDカーと高級セダンの間を埋める存在として生まれたことから、これらのクルマは単にクロスオーバーカーとも呼ばれる。

その先駆となったハリアーの成功はもちろんだが、他のメーカーも販売を伸ばしたのは事実。ボルシェなど、実用的ではない本格スポーツカーである911系の入手には踏み切れなかったユーザー層が、クロスオーバーSUVである「カイエン」が発売されたときに飛びつき、一時危機を伝えられた経営を改善させたとも言われているほど。それくらいこの「高級サルーンの乗り心地と快適性を兼ね備えた存在」であるクロスオーバーカーというジャンルは、新たな境地を切り開き、一般ユーザーが待ち望んでいたクルマ文化と、使い勝手の良さを提供したのである。

ハリアーは2003年に初めての大きなモデルチェンジが実施され、ルーフからリアエンドに向かうスムーズなラインなど都会的なフォルムはさらに磨かれ、人気は高レベルで上昇する。もちろんアメリカでは同形車がレクサスRXとして併売されていた。そのハリアーを取り巻く状況がさらに大きく変化するのが、2013年である。

国内専用車種へと再出発!

2012年9月に生産を終了し、一度は姿を消したハリアーだが、翌年の12月には3代目ハリアーが発売開始となる。国内では販売終了しているものの、アメリカでは継続販売されているRAV4のプラットフォームをベースに開発された3代目のZSU系は、ボディサイズを2代目比で多少コンパクトにし、取り回し性を向上させながらも高級感維持。そして、ここからハリアーはレクサスRXとは完全に分離され、日本国内専用モデルとなるのだ。さらに以前のようにクルーザーなどの兄弟車は設定されず、トヨペット店での専売車種ともなる。

この処置は販売ディーラーであるトヨペット店にとっても大きなメリットとなったはず。なにしろモデル末期となった今年3月でさえ、全国で7300台以上の販売実績がある人気車種なのだが、トヨペット店以外では手に入らない。さらに、歴代のハリアーが持ち続けてきた価値感、つまりコストパフォーマンスの高さも関係する。

ハリアーは、国内屈指の高級ラグジュアリーSUVであるが、価格設定の幅が大きい。エントリーモデルのFFガソリン車であれば300万未満で手に入る。今年で誕生以来20年を迎えるハリアーだが、この「価値感」こそが大きな存在意義であり、絶大な人気を保持してきた要素なのだろう。

今回のマイナーチェンジでは、安全装備の充実も大きなポイント。ハリアー級のクルマでは、着座位置が高くボディも大柄なため、ドア下や後方の視野確保が重要なのだが、左のドアミラー下部には小さなミラーがあり、ドア下の確認ができる。センターダッシュボードのモニターには後方ばかりじゃなく、クルマ周辺の状況を表示してくれる。

さらに、すでにトヨタの主要車種には搭載されている「トヨタ・セーフティ・センスP」がハリアーにも装備された。ミリ波レーダーと単眼カメラを併用した検知センサーと統合的制御により、プリクラッシュブレーキや、レーン逸脱警告ブザー、前走車との安全な車間距離制御など、運転支援対応システムは充実したといえる。

頻発する高齢者の交通事故対策として、警察庁はこれらの運転支援システムを装備したクルマに限定した、高齢者用免許も検討している。この状況から推しても安全システム装備は時

—インプレッション— 本物志向インテリアと 充実した安全装備!

試乗用に用意されたのは中級グレードの「PREMIUM」であるが、内装は「メタル&レザー・パッケージ」仕様で、シート素材がプレミアムナッパ本革であったり、アルミヘアラインのパネルなどが装備されている。また、本革巻きステアリングホイールのグリッ

